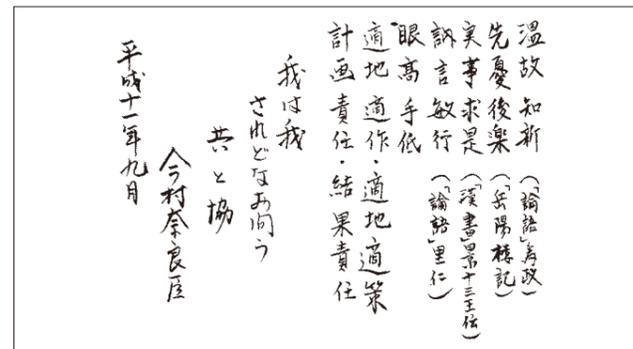


「コロナ禍を乗り越える」ための参考資料

参考 ①

今後の農業経営を考える銘言



▲食料・農業・農村政策審議会 初代会長就任時の思い

東京大学名誉教授 **今村 奈良臣** 塾長 令和2年2月28日ご逝去
大分県出身、おいた農業平成塾塾長（平成2年～11年）

【銘言の解説】

平成12年1月21日（金）に大分市の農業共済会館で開催された東京大学名誉教授今村奈良臣先生による「21世紀農業は花形産業」の講演録からの抜粋

「これは、平成11年9月。なぜ、9月のを、今頃書くのか、正月なら正月らしく書けたいわねるかもしれませんが、去年、9月6日に、食料・農業・農村政策審議会の会長に互選され、内閣総理、小淵総理から、今村さんを会長に任命しますということになったわけです。

その後、福島の三春農林塾に行って講義した後、一杯、みんなでワイワイ飲んでる時に、面白いというかしたたかな奴がいて、「先生、会長になった所信を述べろ」というわけです。「こんなに飲んで所信を述べられるか」というと、「それも述べられようならもう首や」などと言うから、「筆持ってこい」と書いたのがこれです。

あんまり筆がよくなかったということもあるし、酔っぱらってたこともありちょっと金釘流ですが、精神はこういことなんです。

温故知新（「論語」為政）。帰って子供さんか、お孫さんあたりの辞書持ってきて、明日ぐらい頭しっかりとした時に、ちょっと引いてみてください。簡単に言えばですね。先人の知恵をよく勉強して、批判検討し将来に活かす。温故知新ですね。

先憂後楽（「岳陽樓記」）。天下の憂いを先に悟り、天下に遅れて楽をする。これリーダーの鉄則ですね。残念ながら我が国の政治家や経済界の多くはどちらも先憂後楽が多すぎるんですね。

それから实事求是（「漢書」景十三王伝）。これは事実や実態の動きを的確に調査分析する中から、新しい原則、法則、路線、方向を探り当てる。

これは、毛沢東とか鄧小平が使い出して急に有名になったんですね。ですが、それは間違いない考え方です。

訥言敏行（「論語」里仁）。これは、口ばかり言うんじゃないで、口重く黙っていても、腹を決めて、やるべきことは、敏速に積極的に行う。敏速に行うということです。

眼高手低というのは、これは私が作った言葉です。歴史の残るかどうかわかりませんが、意味はわかりますね。考えるところ、見るところは高く、広く、しかし、日々地道にやる。だから望みは高く、日々行う実践は着実に、手は低く。

それから適地適作・適地適策。この二つがやっぱり大事だと思うんです。両方そろって。

それから私が特に農林水産省の職員に言っているのは、計画責任、計画立てて責任もあるし、その計画立てた責任と同時に結果責任を問われなければならないということ。

成果がどうなったか、そこまで調べて誤りは正していき初めて行政というのは意味を持つ。これは行政だけでなく、皆さんも日常的にいろいろの場面でやって欲しいところです。

会社だってこれを本当にわかった社員ばかりだとたぶん会社は隆々たるものだろうと思います。私は、会長としては計画する立場であり、10年先生きていかどうかかわかりませんが、何としても結果についての責任は取ろう。取り方もどうするかは、それはまたいろいろ方法ありますからね。考えますけれども。

そういうことを考えて、ちょっと酒飲みながらだったから調子が高すぎたかなと思ってますが、しかしまあこういうことをやろうという考えだということを書いたわけです。

塾生は何度も聞いた人もいるかもしれないが、新人もおられますし、役所の人いろいろかわりましたから、一応、最初から話します。「我は我、されどなお問う、共と協」。これは私が作った川柳です。これが、農村をこれから新しい方向へ向かわせる場合の基本だと私は相変わらず考えてます。

「我は我」というのは、個の自立。あるいは個の確立ということですかね。我は我ですから。それから当然、自己責任、自己責任の原則。これはもう当然。同時にこのことは経済行為から言えば市場原理を意味しています。つまり市場のメカニズムといえますか。「我は我」がないところには、つまり個の自立がないところは市場原理というのはありません。

とにかく、「我は我」という考えは基本だと思うんです。しかし、「市場原理だけでは総べてうまくいきますか。いやいきませんよ」という課題を「共」、地域ということですね。あるいは、ちょっと古い言葉ですが、共同体と言い換えてもいいんですけど、その共です。あるいは集落。

これは他の産業と非常に違うところですが、農業というのは土地産業ですから、基本は土地です。ですから地域を離れることができないんですよ。この土地産業という意味には、水利とかいろいろの資源を同時に含んでいるという意味です。

地域を離れて代わるということとは出来ません。これが基本です。勝手だ、どこへ行こうと勝手だということではないわけです。

だから地域をきっちりと良くしなきゃいけない。それから、「協」というのは、字からして心と力を会わせるといいますが、これは必ずしも協同組合という意味での協ではないんです。

心と力を合わせずに、プラス資本の結合を考えた時には企業でも、あるいは株式会社も有限会社も企業の形態ですから、資本結合と心と力の結合。つまりその基本は、人材ということになります。資本と人材を結合させるということが必要です。ベースは地域に置かない限り、だめです。置かなかったら農業でないんです。この2つを忘れてはダメです。しかし片方では、市場原理、我は我。これがなくちゃダメです。この、3つをどうつないでいくかということが大事ですが、こういう方向へ持って行くのが一番難しく、これがリーダーの役割です。

今日おいでの皆さんは地域のリーダーになるために塾と一緒に研鑽し、私も粉骨砕身、一生懸命努力したつもりです。

皆がただの農業者で、ただ普通の、「わしも地域の一人」というんだから、別にこれだけの県費をつぎ込み、私も骨惜しみずにする必要はなかったのですが、皆さんを現実に、明日の大分県農業、地域農業を背負っていただくリーダーにしたいがために、平成塾をやったわけですから、ぜひ、このところをもう一度考えていただきたいということを書いてあります。



JAバンク 大分

新型コロナ対策 次世代農業経営者研修会

日時 令和2年8月18日(火) 13:30~17:00

場所 大分県労働福祉会館「ソレイユ」7階カトレア
大分市中央町4丁目2番5号

主催
次世代農業経営者ネットワーク（谷口塾）
JA 大分信連



参考 ②

「新しい生活様式」を実践しましょう

基本的な感染対策

- ☑こまめに手洗い・手指消毒
- ☑咳エチケットの徹底（外出時はマスク着用）
- ☑3密（密集・密接・密閉）を避ける
- ☑人との間隔はできるだけ2m（最低1m）
- ☑会話は可能な限り真正面を避ける
- ☑窓を開け、こまめな換気（1時間に5～10分程度）
- ☑地域の感染状況に注意する

買い物

- ・1人または少人数で空いた時間に
- ・計画をたてて早く済ませ
- ・展示品への接触は控える
- ・レジに並ぶときは、前後にスペース
- ・電子決済を利用する
- ・通販も利用する

食事

- ・対面を避けるなど座り方を工夫する
- ・おしゃべりは控える
- ・大皿は最初に取り分ける
- ・お酌は控え、回し飲みはしない
- ・持ち帰りやデリバリーも活用

スポーツ・娯楽等

- ・散歩やジョギングは少人数で
- ・すれ違うときは距離をとる
- ・公園は、空いた時間、場所を選ぶ
- ・施設利用時は予約して混雑を避ける

働き方

- ・テレワーク、ローテーション勤務の導入
- ・時差出勤でゆったりと
- ・オフィスはひろびろと
- ・会議はオンラインを活用
- ・打合せはマスク着用、スペースの確保

【大分県新型コロナウイルス感染症対策本部】 大分県 新型コロナ 検索

写真提供：国東半島宇佐地域世界農業遺産推進協議会
「The・おいた」ブランド流通対策本部
大分県園芸活性化協議会